「ワールド　イズ　スターマイン」

登場人物

古川　宇野工業株式会社　庶務課課長。

仁村　庶務課の女性社員。

酒井　庶務課の男性社員。

宇野　宇野工業株式会社　社長

遠野　宇野の秘書。

塩原　待野町（まちのちょう）駅前商店街で金物屋を営む男性。

十日町　駅前商店街の薬屋の次男。

細野　平井煙火本舗（ひらいえんかほんぽ）社員。

宇野工業株式会社庶務室。
部屋はこざっぱりと片付いてはいるが、こまめに片付けていると言うよりは、資料などをほとんど使っていない様子。その証拠に所々、書類等が積み上っている。
上手奥には冷蔵庫やポッド、急須などがおいてある。
下手奥には廊下に続く入り口。
中央のデスクでは、古川、仁村、酒井が伝票整理・書類作成など各々の仕事をしている。
仁村がふと部屋の時計を見る。

仁村　課長ー。三時になりましたよー。
古川　あ、本当だ。じゃあ。お茶にしようか。
仁村　はーい。

お茶の準備をしに行く仁村。

酒井　ふぅー。
古川　仁村ちゃん、芋羊羹買って来たからさ。それも食べよう。
仁村　あー、ありがとうーございまーす。
古川　うん。冷蔵庫に入ってるから。
酒井　あ、（仁村を手伝いにいく）
仁村　はーい。んー？何ー？
酒井　あ、お茶・・・
仁村　あー、ありがとうー。（お盆・お茶、渡す）
酒井　はい。（戻ってお茶配る）どうぞ。
古川　お、ありがとう。
酒井　いえ。
仁村　酒井くーん。お盆ー。
酒井　あ、はい。（仁村にお盆を返しにいく）
仁村　ありがとー。（お盆に羊羹を載せ戻ってくる）はーい。羊羹でーす。

古川　おー、ありがとう。

二人、座る。

三人　（各々のタイミングで）いただきます。

お茶をのみ、ため息をつく三人。鳥の声など聞こえる。

古川　落ち着くねぇ。

仁村　落ち着きますねー。

酒井　はい。

部屋の前の廊下を通り過ぎようとしていた宇野が、休んでいる三人に気付き入ってくる。三人を見てため息。

宇野　何やってんの？

古川　あ、社長。

宇野　「あ、社長」じゃないよ。何やってんの古川君。

古川　お茶を・・・

宇野　見りゃ判るよ！見りゃ判るんだよ古川君。私が聞きたいのはね、何でいま、三人でゆっくりお茶してんのかって事だよ。

古川　まぁまぁ、いいじゃないですか。もう三時なんだから。

酒井、社長分のお茶と羊羹を取りにいく。

宇野　まだ三時だよ。君たち一時まで昼休みとって、二時間ぽっち働いて、まだ三時だよ。それなのに君たちは。仕事終わったの？ねぇ、仁村さん。

仁村　えーっとぉ・・・あと、伝票ー、処理してー・・・・・実績入力をー、

宇野　もういいよ！終わってないんでしょ？要するに。（酒井がお茶と羊羹を置く）・・・何？何コレ？

酒井　お茶・・・

宇野　いらないよ！片付けなさい！（酒井、社長分を下げようとする）全員分だよ！

酒井　はい。（全員分下げる。古川・仁村、それを目で追う）

宇野　全く君たちは・・・（二人がずっと羊羹をみてるのに気付く）いつまでも羊羹気にしてんじゃないよ！こっちを見なさい、こっちを！

古川　まぁまぁ、羊羹ですから。

宇野　・・・言ってる事の！意味がわからない！・・・ちょっと君たち立ちなさい。

説教を始めようとする宇野。
そこに酒井が戻ってくる。

仁村　ラップー・・・

宇野　羊羹いいんだよ！

酒井、仁村にOKサイン。古川も確認する。
三人、ニコニコと宇野を向く。
宇野、深いため息。

宇野　・・・いいかい？君達はね、

突然、遠野が入ってくる。

遠野　社長。

宇野　何！今から彼らに社会人としての、

遠野　商店街のキャンペーンの件で塩原様がお見えになってます。

宇野　え？（時計を見る。ため息）しょうがないな。

遠野　よろしければ、こちらは私の方で、社会人としての心得など説いておきますが？

宇野　説いておいて。頼むよ、遠野君。

遠野　はい。塩原さまは応接室でお待ち頂いておりますので。

宇野　わかった。

宇野、ため息をついて出て行く。
遠野、ピシリと三人の前に出る。

古川　遠野さん。芋羊羹あるんだけど、食べない？
遠野　結構です。今から皆さんに社会人としての心得をお伝えします。まず、何故わざわざそんな話をしなければならないか、
宇野　古川君！

宇野が急いで戻ってくる。話を遮られて少しムっとする遠野。

宇野　君たち、いつも午後はこんなに暇なのかね？
古川　はい。
宇野　はい？（屈託の無さにムっとする）・・・まぁいい。君たちに新しい仕事を任せようと思う。
仁村　えー？
宇野　文句いうな！
古川　何の仕事ですか？
宇野　うん。待野町地域活性プロジェクトだ。

暗転
タイトル「ワールド　イズ　スターマイン」

庶務室。
下手に宇野と塩原が立っている。向かい合う様に上手には古川、酒井、仁村。

宇野　こちらは塩原さん。駅前商店街で金物店を営んでいらっしゃる。
塩原　まぁ、今はほとんど店閉めてるんですけどね。
宇野　・・・まぁ塩原さんだ。
塩原　よろしくお願いします。
三人　よろしくお願いします。

宇野　塩原さんは今年の駅前商店街夏のキャンペーン実行委員をやって、
塩原　委員長をやって、
宇野　実行委員長をやっていらっしゃって、
塩原　まぁ実行委員長って言っても暇そうだから選ばれちゃったんだけどね。
宇野　・・・はい。で、今日はその協賛企業を募りにうちの社にいらっしゃ、
塩原　あ、実はもう一人実行委員がいるんですけど。十日町くんって言って一緒に来たんだけど、さっきはぐれちゃって。
仁村　えー、大丈夫ですかねー？
古川　まぁ、大丈夫でしょ。敷地は広いけど、危険な場所は無いし。
酒井　あ、探して（来ましょうか？）・・・。
塩原　いや、大丈夫、大丈夫。ちょっと電話してみますね。（携帯を出す。）
十日町　いるよ。

十日町が男前に庶務室に入ってくる。

塩原　十日町くん、いたの？
十日町　ずっとそばにいるよ。
塩原　あ、そう。えー彼がもう一人の実行委員の十日町くんです。
十日町　十日町だけど？（挨拶）
三人　・・・よろしくお願いします。
十日町　よろしく。
塩原　十日町くんは、商店街の薬屋さんとこの次男。彼も暇だからお父さんにやれって言われて、実行委員。
仁村　そうなんですかー。
古川　学生さん？
塩原　いや、無職だよね？
十日町　俺は、俺である事が仕事だから。
塩原　あ、そうなんだ。
古川　でも無職もいいよね。仕事しないっていうのはちょっと羨ましいよね。
酒井　あ、、そうですね。
仁村　私もー昼間からーお茶してーゆーっくり過ごしたいですー。
塩原　あーいいよねー。

段々と宇野を除いた面々で輪が出来る。

宇野　ちょっといいかな！
古川　どうしました？
宇野　まだ説明の途中だからさ。
仁村　そうでしたー？
宇野　そうだよ！だいたい仁村さん、昼間っからお茶してるのいつも通りだよね？
仁村　そうですねー。
宇野　ちゃんと仕事して！なんか急にそっちがダメ人間の集まりになったからビックリしたよ。
酒井　あ、（社長がはいるスペースを空ける）入ります？
宇野　入らないよ！ちょっと、塩原さんと十日町さん、こっちに来て。
塩原　はいはい。

宇野のそばに戻る塩原。
十日町、後ろ向きに宇野に近づき、さっと振り返る。

十日町　呼んだ？
宇野　・・・そこに立っててもらっていいですかね？
十日町　任せて。
宇野　・・・はい。で、君たちには地域活性プロジェクトチームとして、塩原さんと十日町さんと共に、駅前商店街のキャンペーンの企画に参加して欲しい。
古川　キャンペーンの企画ですか。
塩原　えー！いいんですか？手伝ってもらって？
宇野　いいですよ。どんどん使って下さい。
塩原　やったー！いやー正直、キャンペーンの実行委員長任された時に、「すっげー面倒くさいな」って思ってたんですよ。社長、ありがとうございます！
宇野　いえいえ。

酒井　あの、
宇野　どうした？
酒井　いや・・・その・・・キャンペーンの企画って言うのは、例えばどんな・・・。
塩原　そうだね。例えばここ何年かは、福引き、だね。商店街でいくらお買い物すると、福引きが引けて、温泉とか、テレビとか、もらえるヤツ。
仁村　私ー、醤油しか当たった事無いかもー。
古川　でも醤油いいよね。なんにでも使えるし。
仁村　そうですねー。オムライスとかー、
酒井　オムライスに醤油使うんですか？
仁村　オムライスのー卵をー醤油で味付けするでしょー？
塩原　それおいしいの？
仁村　しょっぱいですー。
十日町　当たり前だろ？（仁村の額を指で押す）
古川　でも意外と合うかもしれないよね。
塩原　だし巻き卵は、合わないか。

卵談義が盛り上がり、また輪が出来る。

宇野　ちょっといいかな！
古川　どうしました？
宇野　どうでもいい、その話。そして、気持ちが悪い、君たちは。
酒井　あ、（スペースを空ける）
宇野　入らないよ！君の気の使い方はいちいちしゃくに触るな。塩原さんと十日町さんはこっち来て。
塩原　はいはい。

宇野のそばに戻る塩原。
十日町、後ろ向きに宇野に近づき、さっと振り返る。

十日町　呼んだ？
宇野　呼んだよ！そこに立っててもらえますかね！

十日町　OK
宇野　・・・（ため息）とにかく、
遠野　社長。

突然、遠野が入ってくる。

宇野　何？こんどは？
遠野　そろそろ会議の時間ですので。
宇野　（ため息）わかった。あぁ塩原さんは紹介したっけ？
遠野　先程、お会いしてご挨拶させて頂きました。
塩原　そうそう。
宇野　あ、そう。あとこちらは十日町さん。塩原さんと同じキャンペーンの実行委員の方。
十日町　待ってたよ。
遠野　え？
十日町　十日町。そう呼んでくれ。（握手）
遠野　あ、遠野です。
十日町　とおの？十の野？
遠野　あ、いえ遠い野です。
十日町　そうか。十の野だったら、俺と同じだったのに。
遠野　？あぁ、十日町さんは十の日の町なんですね？
十日町　そう。でも不思議だね。
遠野　え？
十日町　遠い野だなんて、君はこんなに近くにいるのに。

遠野を見つめる十日町。
ぼーっと見つめる遠野。

宇野　彼は何を言ってるんだ。
塩原　十日町くんはロマンチストさんだなぁ。
宇野　ロマンチストさん？・・・さん？・・・今のが？
古川　まぁいいじゃないですか。こっくりさんじゃないだけでも。

宇野　君は何の話をしているの？・・・まぁいい、じゃあ私は会議に行くから。
塩原　あ、社長！協賛金の事なんですが。
仁村　協賛金？
塩原　宇野工業さんには毎年キャンペーンに協賛金を出していただいてるんですよ。
仁村　そうなんですかー。
宇野　まぁ駅前商店街は近いし、地域貢献みたいなもんだよ。
塩原　そもそも今日はその協賛金の事で来たんですけどね。
宇野　今年は協賛金の代わりに君たちが協力する事にしたから。
塩原　ねー。・・・代わり？
宇野　はい。
塩原　協賛金の代わり？え？・・・じゃあ協賛金は？
宇野　ん？人員を割いて協力しているのに、その上金も出せってことですか？
塩原　え？いや・・・。
宇野　彼らは我が社でも選りすぐりの人材だから、君たち、塩原さんの指示に従って、存分に働いてね。
三人　はい。
宇野　じゃあ、私はそろそろ会議に行かないと。塩原さん、頑張ってね！
塩原　はぁ・・・。

宇野、笑顔で去っていく。
呆然と見送る塩原。

塩原　・・・騙されたー！金出し渋りやがったー！うわーどうしよう？
古川　まぁまぁ、塩原さん。私たちが協力しますから。
塩原　本当ですか？
古川　はい。
塩原　その前にあなた誰ですか？いや、よく考えたら名前知らないし。
古川　庶務課課長の古川です。
塩原　古川さん。そちらは？

仁村　仁村ですー。
塩原　仁村さん。（酒井に目線で尋ねる）
酒井　あ、あー、酒井です。
塩原　酒井さん。
十日町　十日町だけど？
塩原　うん。知ってた。で遠野さんと。
古川　あ、遠野さんは秘書課だからプロジェクトチームじゃないですよ。
塩原　そうなんですか。
古川　えぇ。遠野さん、遠野さんは会議行かなくていいの？

はっと気付く遠野。

遠野　大丈夫です。私は会議中は特に仕事ありませんから。
古川　あぁそう。
塩原　じゃあ、プロジェクトチームの皆さん！なんとかしてください。
仁村　なんとかってー？
塩原　なんとかして下さいよ。協賛金が無いと福引き出来ないじゃないですか。
酒井　はぁ。
仁村　そうですねー。
塩原　・・・・・・えぇ？ちゃんと考えてます？協賛金が無いと、福引き出来ないんですよ？それについて意見とか案とか無いの？
酒井　はぁぁ。
仁村　そうですねーー。
塩原　・・・・・・騙されたー！悪い方に選りすぐりの人材だー！
仁村　そうですかねー。
酒井　いや、どうですかね？
塩原　これじゃ福引きできないよー！商店会に怒られるー！
古川　まぁいいじゃないですか。福引きしなくても。
塩原　しなきゃダメでしょ！しないと実行委員が怒られるでしょ！それは嫌でしょ！十日町君も嫌でしょ？
十日町　俺は、怒られるの、好きじゃない。

塩原　そうだよね。怒られるの嫌だよね？ほら、福引きなんとかして下さい。
仁村　なんとかって言われてもー。
古川　うーん。

考え込む古川、仁村、酒井、塩原。

遠野　ちょっとよろしいですか？
塩原　はい、遠野さん。
遠野　福引きを止めたらいいんじゃないでしょうか？
塩原　だーかーらー、話聞いてたー？遠野さーん。
遠野　いえ、ですから、福引き以外の企画にしたらいかがですか？もっとお金のかからない物にするとか。
塩原　遠野さん。
遠野　はい。
塩原　それ採用。そうだよ。別に福引きなんかやらなくても、もっとお金のかからない事すればいいじゃーん。だいたい福引きなんて、賞品選ぶの面倒臭いしー。はい！それじゃあ別の企画！ある人！

沈黙。

塩原　さぁ考えて！別の企画！お金がかからなくて、なおかつ実行委員が褒められるようなヤツ！さぁ！さぁ！
酒井　あの・・・。
塩原　ハイ来た！酒井君！
酒井　え？いや、あのー、・・・案じゃなくて・・・
塩原　いいよー。何でもいいよー。言ってみよう！
酒井　その・・・塩原さんは、考えない、んですか？
塩原　・・・酒井君。私はこれだけは言いたくなかったんだがね。
酒井　はい。
塩原　実は私・・・こういうの非常に面倒くさい。
酒井　え？
塩原　ほら！私はもっとこう、肉体労働派だからさ。色々決まってから動く

訳だよ。いやいや、実行委員だってもちろん考えるよ？でもそういうのは十日町くんの方が得意だから。ねぇ十日町君？

十日町　なんだい？

塩原　十日町君なら何やる？福引きの代わりの企画。

十日町、男前に考える。

十日町　・・・トマトを、投げる。

塩原　ほら来た！スペインのトマトを投げる祭り的なね！いやいや、ダメなのは判ってるけどね？あんなに大量のトマト買えないし！でもこういうのって、意見を出すのが大事だから！だいたいよく考えれば「トマトを投げる」って何？って話なんだけど！でも、それでも意見を出した事、評価しよう？ね？そうでしょう？

酒井　あぁ・・・はい。

古川　でも、トマトを投げるお祭り楽しそうだよね。

仁村　トマト美味しいですもんねー。

塩原　ちょっと理屈が見えて来ないけど。はい！他の意見！ある人！

仁村　はーい。

塩原　はい！仁村さん！

仁村　ミカンを投げるー

塩原　投げるの離れましょう！勿体ないしね！みかん買えないし！

古川　はい！

塩原　はい！古川さん！

古川　みかんが食べたい！

塩原　で！？で、何？みんなちょっと落ち着こう？ちょっと脱線して来てるよ？脱線なのかな、これは？それすら判んないから。

遠野　はい。

塩原　えぇ？この流れで大丈夫？遠野さん。

遠野　あの、トマトを投げる、というような奇抜な物は出来ませんが、一般的なお祭りでしたら可能なんではないかと。奉納という形で企業、商店、個人などから広く寄付をお願いしていけば、予算も比較的抑えられますし、普段商店街に来られない方にも足を運んで頂けると思いま

すのでキャンペーンとしての体裁は整うかと思いますが。

塩原　・・・何この人！この流れで真っ当な意見出して来た。逆に怖い！

古川　でも、お祭りいいよね。楽しいし。

仁村　そうですねー。

塩原　うーん。でもなんか大変そうじゃ無い？お祭りって。

遠野　確かに大変かもしれませんが、その分、成功に終わった時は実行委員の皆さんの評価は高いと思いますよ。そのために我々も全力でお手伝いさせて頂きます。

古川　遠野さんはプロジェクトチームじゃないから手伝わないんじゃない？

遠野　そうですね。プロジェクトチームのみなさんが手伝ってくださいますし、私も個人的にできるだけお手伝いしますので、何かありましたら何なりとお申し付け下さい。十日町さんも。

塩原　そうか。プロジェクトチームの皆さんがいるんだもんね。大変そうだったら（古川達を見る）・・・うん。お祭りやりましょう！

仁村　わー（拍手）

古川　なんか、盛り上がって来たね。

酒井　あ、、はい。

遠野　塩原さま。

塩原　何？あと別に様付けじゃなくていいよ。

遠野　では塩原さん。この企画の本部はどちらになりますか？

塩原　本部？

遠野　はい。会議やポスター等の制作、お祭りの寄付を受け付けたり、問い合わせをうける為の本部は必要だと思いますが。

塩原　えぇー？うちじゃまず、この人数は無理だしなぁ。

遠野　それでしたら、もしよろしければ、この庶務課の部屋を使いませんか？

塩原　え？いいの？

遠野　社長から直々にプロジェクトチームとして任命された訳ですから、この部屋を使って頂いても問題ないと思います。庶務課のみなさんも問題ありませんよね？

古川　いいんじゃないかな。

仁村　そうですねー。

酒井　えっと、、はい。

遠野　みなさんこうおっしゃってますし。あとは塩原さんと、十日町さんが良ければですが。
塩原　もちろんいいよ。十日町くんもいいよね？
十日町　俺が断るわけないだろ？
塩原　じゃあここが本部で決定！すごい！なんかドンドン話が決まっていくね！お祭り意外と楽勝じゃない？あとは何決める？遠野さん？
遠野　そうですね。まずは商店街のみなさんにキャンペーンの企画をお祭りにする許可をもらわないといけないと思いますから、なるべく具体的な企画書を作る必要がありますね。開催日程や会場の範囲、出店などを出すのか、当日のイベントの企画、スタッフの手配、交通整理等の人員の手配、警察署などに道路の使用許可なんかも取らないと行けないですね。
塩原　なるほど！プロジェクトチームのみなさん！よろしくお願いします！
酒井　え？
塩原　いや、私そろそろ帰らないと。店の事もあるし。
仁村　お店閉めてるんじゃなかったですかー？
塩原　いや、鍋、洗わないと。埃まみれになっちゃうからね。十日町君。十日町君！
十日町　どうした？
塩原　もう帰るから。
十日町　おっと、ダンスパーティーの時間かな。
塩原　いや、掃除。
十日町　YES 掃除。

塩原と十日町、握りこぶしを軽くぶつける。

塩原　では我々はこれで。
十日町　チャオ。
遠野　あ、

軽い会釈で出て行く二人。

酒井　チャオ？
古川　なんか、かっこいいよね。
酒井　え？
遠野　仁村ちゃん。
酒井　ちゃん？

遠野、仁村に駆け寄る。

遠野　私たち、友達よね？
仁村　んー？
遠野　ううん、私、前から仁村ちゃんとは友達になりたいと思ってたの。友達になってくれる？
仁村　んー、まぁー
遠野　いいの？ありがとう！ところで仁村ちゃん、仁村ちゃんは友達の恋、応援してくれるよね？
仁村　ま
遠野　当然だよね。考えるまでもないよね。実は私、今好きな人がいて、
仁村　本当にー？
酒井　見てればなんとなくわかりません？

遠野、酒井を睨む。

酒井　スミマセン・・・。
遠野　（仁村に）そうなのー。実は、私、十日町さんの事、ちょっと・・・好きになっちゃったみたいなんだ。
仁村　そうなんだー。
遠野　だからね、仁村ちゃん。私と十日町さんがうまくいく様に協力してもらいたいの。
仁村　いいよー。
遠野　本当に？じゃあ、取りあえず十日町さんが来たらすぐに私にメールして。すぐ来るから。あ、もし会社以外で見かけた時も、すぐにどこで見たってメールしてね。あ、今アドレス教えるね。

遠野、携帯を出し番号交換する。

古川　女の子はすぐ仲良くなるね。

酒井　そう・・・ですね。

遠野、仁村とアドレス交換を終える。

遠野　じゃあメール、絶対ちょうだいね？

仁村　わかったー。

遠野　絶対、だからね。じゃあ失礼します。

古川　遠野さん、芋ようかん、

遠野　結構です。社長の会議中にやらなければならない事もありますので。

遠野、颯爽と出て行く。

仁村　仕事ないって言ってたんですけどねー。

古川　じゃあ、プロジェクトの成功を祈って羊羹で決起集会でもしようか。

酒井　あ、はい。

仁村　そうですねー。

お茶の準備を始める面々。

暗転。

庶務室。

下手に宇野が立っている。

上手に立たされている古川、仁村、酒井。

宇野　古川君、お祭りって何？

古川　・・・生き甲斐、ですかね。

宇野　そういうこと聞いてんじゃないよ！なんだ君、お祭りは生き甲斐って！そう言う事じゃなくて、なんで福引きからそんな大事になってん

の？
古川　いいじゃないですか。お祭り、盛り上がるし。
宇野　まぁ盛り上がるけども。盛り上がるけれども、祭りする金があるのかね？
仁村　寄付ー
宇野　ウチしないからね？
仁村　呼びかけるってー、言ってましたよー。
宇野　誰が？塩原さん？あの人そんなやる気あったか？だいたい君らもいつも全然やる気無いのに、なんでこう大変な方に行くの？

廊下から遠野が庶務室を覗きこみ、宇野を確認して入ってくる。

遠野　社長、どうかなさいましたか？
宇野　え？
遠野　いえ、廊下にも声が聞こえましたので。
宇野　あぁ。いや、大した事じゃないんだけどね。・・・いや、彼らがさ、普段全然やる気が無いのにね、やれ祭りをするだの、寄付を集めるだの、出来そうも無い事を企画するからね？もっと彼らに出来そうなラインの？企画にしなさいって言ってんだよ。
遠野　なるほど・・・それでしたら社長。私がこのプロジェクトの監視役として、プロジェクトチームに参加すると言うのはどうでしょう？
宇野　え？でも遠野君、自分の仕事もあるでしょ。
遠野　午前中に全て終わらせます。午後の仕事は、他の秘書課のメンバーに割り振れば大丈夫です。それでも足りない場合は残業でも早朝出勤でもして間に合わせます。
宇野　・・・遠野君、君一人にそんな無理させていいの？
遠野　大丈夫です。私、もっと会社の為に貢献したいんです。
宇野　そうか。・・・じゃあ、遠野君も、今日付けで地域活性プロジェクトチームに任命する。
遠野　はい。ありがとうございます。
宇野　うん。遠野君、くれぐれも、（小声）張り切った企画にならない様に頼むよ。

遠野　かしこまりました。
宇野　古川君、今日から遠野君もプロジェクトチームに参加してもらうから。
古川　はい。
宇野　君はプロジェクトチームのリーダーとして、しっかり遠野君の指示を聞いてね。
酒井　え？
古川　わかりました。
宇野　うん。じゃあみんな、適度に、頑張って。遠野君よろしくね。
遠野　はい。

宇野、庶務室を出て行く。

遠野　っしゃ！（小さくガッツポーズ）
酒井　！（ビクッとする）
遠野　古川課長、よろしくお願いしますね。
古川　こちらこそよろしく。
仁村　遠野ちゃんよろしくねー。
遠野　うん。仁村ちゃんよろしくー。酒井君もよろしく。
酒井　あ、あぁ、はい。
遠野　じゃあ私、まだ秘書課の仕事ありますから、あとでまた来ます。もし時間あれば祭りの件、少しつめておいてください。
古川　わかりました。
遠野　それでは。仁村ちゃん、十日町さん来たらくれぐれもよろしくね。
仁村　はーい。じゃああとでねー。

遠野、出て行く。

古川　女の子が仲良くしてるのはいいなー。
酒井　あぁ、、はい。
古川　さて、じゃあちょっとお茶飲みながらお祭りの事でも考えようか。
仁村　じゃあ、私いれますねー。
古川　お、ありがとう。

酒井　あ、
仁村　一人で出来るから大丈夫ー。
酒井　あ、スミマセン。

座る古川、酒井。お茶の準備をする仁村。

古川　お祭りねぇー。酒井君、お祭りと言えば？
酒井　え？・・・課長は？
古川　うーん。お祭りと言えば、わたがし！

戻って来てお茶を配る仁村。

仁村　私はかき氷ですかねー。
酒井　あ、じゃあ・・・やきそば。
仁村　いいねー。
古川　いいよねー。

お祭りを夢想しぼーっとする三人。
はっと気付く古川。

古川　あ、他には？
仁村　チョコバナナとか。
酒井　あの、イカ焼き・・・。
古川　あーいいよねー。

お祭りを夢想しぼーっとする三人。
はっと気付く古川。

古川　あ、ちょっと食べ物離れようか。
仁村　そうですねー。
古川　食べ物以外でお祭りっぽいもの。盆踊り。
酒井　御神輿・・・。

仁村　どっこいとか聞くとーお祭りっぽいよねー。
酒井　どっこい？
古川　わっしょい、わっしょいじゃなくて？
仁村　どっこいーどっこいもいいませーん？
古川　知らないなぁ。聞いた事ある？
酒井　いえ・・・。
仁村　えー？どっこいーどっこいですよー？
酒井　いや、知らないです。
古川　まぁ、色んな担ぎ方があるってことだよね。
仁村　そうですねー。

お祭りを夢想しぼーっとする三人。
庶務室に塩原がやってくる。

塩原　やってる？（ぼーっとしてるのを見て）うわー何やってんの？
古川　あれ？早いですね。
塩原　いやぁ今日は嫁のパートが休みだから家に居辛いんだよね。
仁村　お茶でいいですかー？（お茶汲みに行く）
塩原　あ、ありがとうー。っていうかみんな何やってんの？休憩時間？
酒井　あ、、仕事、ですけど。
塩原　そうなの？そうは見えないけど。
仁村　塩原さんは「わっしょい」と「どっこい」どっちですかー？
塩原　え？何の話？そういう茶菓子？
酒井　いや、御神輿・・・。
塩原　御神輿？
仁村　担ぎ方の話でー。わっしょいーわっしょいーと、どっこいーどっこいーのどっちかなーって。
塩原　あぁ。そういう話か。
古川　でも「わっしょい」と「どっこい」て茶菓子いいね。
仁村　そうですねー。

夢想しぼーっとする三人。

ぼそぼそと「わっしょい・・・」「どっこい・・・」とつぶやく。

塩原　・・・あぁ、ここはそういう部署なんだなぁ。
古川　なんですか？
塩原　いや、たぶんこの部署はこの会社のそういう人達が集まってるんだろうなぁと思って。
三人　？
塩原　まぁ、何でも無い。気にしないで。
仁村　はーい。
塩原　あぁいい返事だなぁ。本当に気にしない所がいいよねぇ。
仁村　？
古川　そう言えば今日は十日町さん一緒じゃないんですか？
塩原　いや、一緒だけど？
古川　あ、一緒なんですか。

会話が終わる。
酒井、十日町がいない事にそわそわする。

酒井　あ、の・・・。
塩原　ん？
古川　どうしたの酒井君？
酒井　あ、・・・いません、けど。
古川　何が？
酒井　いや、・・・十日、町、さん。
塩原　え？・・・あれ！？十日町君？十日町くーん？アレ？どこいった？

十日町、遠野に連れられてやってくる。

十日町　いるよ。
塩原　あ、どこ行ってたの？
遠野　会議室にいらっしゃったのでお連れしました。
十日町　そう言うこと。送ってくれてありがとう。

遠野　いえ・・・。
十日町　さ、仕事を始めようか？
塩原　お、十日町君、やる気だね。
十日町　まかせとけ。
古川　あ、遠野さんは仕事・・・
遠野　終わりましたのでこちらに参加します。
古川　でもさっき出てってから大して、
遠野　終わったのでこちらに参加します。
仁村　あ！（携帯出す）
塩原　どうしたの？
仁村　十日町君が来たらー、メールしなくちゃいけなくてー。
塩原　誰に？
遠野　仁村ちゃん！メールは仕事のあとにしてもらえる？
仁村　十日町くーん、写メするからこっち向いてー。
十日町　オーケー。

カメラを構える仁村とポーズを決める十日町。

塩原　仁村さん、遠野さんに怒られるから後にしなよ。
遠野　塩原さんメールするぐらい良いじゃないですか。
塩原　えぇ？！

写真にこっそり写り込もうとする遠野。

仁村　はい、チーズ。
塩原　酒井君、今、私何も間違ってないよね？むしろ遠野さんに合わせてたよね？
酒井　え、あ、そう、ですね・・・。
古川　にぎやかでいいなぁ。
十日町　じゃ、そろそろ始めようか？
塩原　今日は十日町くんが仕切るの？
十日町　だったら・・・どうする？

塩原　見てる。
十日町　オーケー。じゃあまず・・・何する？
酒井　え？
仁村　遠野ちゃんに聞いた方が早いんじゃないですかー？
古川　遠野さん、何すれば良い？

全員、遠野の方を見るが、遠野は携帯を見ながらニヤニヤしてる。

古川　遠野さん？
遠野　・・・え？あ！はい！どうしました！？
古川　今日は何したら良いかな？
遠野　あ、そうですね・・・商店会の許可はいただいたんですよね？
塩原　許可取ったよ。日付と場所も変更無し。
遠野　そうですか。では、商店街の近くの八幡様に協力をお願いしましょう。
それと諸々の許可申請書類も作らないといけませんね。
塩原　あ、じゃああそこの神主さんは知り合いだから、私行ってくるよ。
遠野　古川課長も責任者として同席していただいてよろしいですか？
古川　いいよ。
遠野　では、私たちは申請書類の作成をしましょう。
仁・酒　はい。
十日町　じゃあ俺は、ずっと見守っているよ。
遠野　え？

見つめ合う十日町と遠野。

塩原　十日町君、仕事しなよ。
遠野　いえ、これくらいは私共の方でもできますので。
塩原　あ・・・そう。
遠野　十日町さんには見守っていていただいてもいいんですけど・・・。

十日町、全員をゆっくり見回す。

古川　あー見てる見てる。
十日町　（酒井を見ながら）・・・ホエザルに似てるなぁ。
酒井　え？
遠野　十日町さん、私は？私は何に似てる？
十日町　君は、土佐犬っぽいよね。
遠野　土佐犬？
仁村　私はー？
十日町　ヌートリアに似てるね。
仁村　ヌートリアかぁー。
塩原　あ、じゃあさ、どうせ仕事ないなら十日町君も神社に挨拶行く？
十日町　いいよ。俺について来いよ。
塩原　場所わかってる？

十日町、にやりと笑うと首を振る。そして颯爽と出て行く。

塩原　じゃあ何で先に行くの？待って十日町くーん。
古川　じゃあちょっと行ってきます。
仁村　いってらっしゃーい。

古川と塩原、十日町の後を追っていく。
遠野、仁村に駆け寄っていく。

遠野　私、十日町さんに「土佐犬っぽい」って言われちゃった。私、そんなに土佐犬ぽいかな？あんな感じするのかな？
酒井　いやー、
仁村　でも私もー、十日町君にヌートリアに似てるって言われたしー。
遠野　ヌートリアはいいよ！デッカいげっ歯類で、すっごい気持ち悪いけど好きな人から見たら可愛いもん！
仁村　気持ち悪い・・・
遠野　でも土佐犬は可愛くない！シワシワのダルダルじゃん！私、十日町さんの事、運命の人だと思ってるのに、十日町さんから見たら、私は運命の土佐犬なのかな？運命の土佐犬って何？

酒井　さぁ・・・。
遠野　運命の土佐犬って、なんか仲間の犬とともに凶暴な熊を倒しにいきそうな、そんなイメージなのかな？私十日町さんにそんな風に思われてるんだ！もう嫌ー！
仁村　気持ち悪い・・・

気落ちした遠野と仁村。
それを見て途方に暮れる酒井。

酒井　・・・・・・・僕はヌートリア可愛いと思いますよ？

遠野、急に酒井に食って掛かる。

遠野　土佐犬は！
酒井　・・・可愛いと思います。
遠野　どのへんが！
酒井　・・・なんというか・・・ブサ可愛い感じ・・・
遠野　私がブサイクだってか！もういい！私、ちょっと熊殺してくる！
酒井　何で？
遠野　私、こうと決めたら見境無いから！うわー！

遠野、走り去っていく。
驚き見送る酒井と仁村。
ふと、仕事のないまま残された事に気付く仁村。

仁村　・・・私たちー、どうすればいいのかなー。
酒井　あ、・・・さぁ？

暗転。

庶務室。
それぞれ仕事中の古川、仁村、酒井。

足早に宇野が入ってくる。

宇野　古川くん、ちょっといいか？
古川　あ、社長。なんですか？
宇野　うん。祭の件どうなってる？
古川　順調ですよ。
仁村　十一時に開会の花火がなったらー出店が開店してー。
古川　フランクフルトとか、やきそばとか、
酒井　あ、あと、御神輿・・・。
仁村　そうそー。夕方から御神輿が商店街を練り歩いてー、
宇野　そうか。古川君。
古川　はい。
宇野　祭り、そんなに大規模にしなくてもいいんじゃないかな。
仁村　規模がおーきい方が盛り上がるじゃないですかー。ねぇ？
酒井　そう、、そうですよね。
宇野　・・・うん。君らにははっきり言わないと判らないだろうからはっきり言おう。駅前商店街を、盛り上げる必要は無い。
酒井　え？
宇野　というより駅前商店街には寂れて欲しいんだ。
酒井　な、何で・・・
古川　どういうことですか？
宇野　これはここだけの話だがね。待野駅周辺の再開発計画が検討されてるんだよ。
古川　再開発。
宇野　うん。駅前も段々とシャッターー商店街になってきたからね。この際、商店街を潰して大規模スーパーを誘致しようという計画もある。我が社としても、再開発工事という大きなビジネスチャンスになる訳だ。だから中途半端に商店街に活気があると色々と困る訳だよ。
仁村　でも塩原さんたちー・・・
酒井　しょ、商店街の、人達は・・・。
宇野　再開発となれば、立退料も出るだろうし、工事で仕事もある。スーパーが出来ればそこで働けば良いし、便利になって人が増えれば他にも

酒井　仕事が出来るはずだ。悪い事は無い。

宇野　で、も、そこで、暮らしたい人も、いる、んじゃないでしょうか？そりゃ少しはいるだろうがね。この町もすこしづつ過疎化が始まっている。その流れを止めるには、町が少しでも、便利で快適になるべきなんだ。商店街の連中のわがままなんかにつきあってると、町ごと寂れていくんだよ。

黙る面々。塩原が入ってくる。

塩原　おはようございまーす！

宇野　おぉ塩原さん。

塩原　あ、社長もいたー。実は、マカロン買ってきたんですよ。食べません？

宇野　いや、私まだ、いろいろ仕事ありますから。

塩原　そうなんですか？せっかくマカロンなのにもったいない。

宇野　すいません。また今度ご一緒しましょう。じゃあ、私いきますんで。今日も頑張ってください。一緒に商店街盛り上げましょう。

塩原　はい。

宇野　君らも、さっき行った通り、塩原さんと協力して頑張ってね。それじゃ失礼します。

塩原　はーい。

宇野、出て行く。

塩原　さぁ、じゃあまずマカロン食べようか。それからでもいいよね。仁村さん、ここって紅茶あります？

仁村　・・・ありますけどー・・・。

塩原　じゃあ、今日は紅茶煎れよう。ね。・・・どうしたみんな？マカロン嫌い？あ、じゃあ私一人でマカロン食べちゃおうかな！で、私がマカロン一人で食べたら、それからみんなで、仕事を、頑張、れ、る、かぁーい！

塩原、倒れる。慌てる三人。

古川　塩原さん！
塩原　そうかー。商店街はそんな風に思われてるのかー。
古川　聞こえてた？
塩原　聞こえるよー。あんな大きい声で言われたら聞こえるよー。そうかー商店街のせいかー。
仁村　でもー、商店街にもー、いいところー、ありますしー。
塩原　例えば？
仁村　例えばー、しょーてんがいー、のー、・・・。

思いつかず困る仁村。

塩原　無いんじゃない！気休め止めて！酒井君だって何も思いついてないんでしょ？
酒井　え？
塩原　商店街のいいところ！
酒井　いっ・・・はい。
塩原　気休めーてー？せめて、一時でもー！
古川　でも商店街いいじゃないですか。駅前で。
塩原　立地の話？今それはプラスじゃないよ？立地がいいから潰されるんだし。
古川　確かに。
塩原　もういいよ。みんな商店街なんてなくなった方がいいんでしょ？
仁村　そんなことないですよー。
酒井　そう、そうです。
古川　塩原さん頑張りましょうよ。頑張って商店街盛り上げましょう？
塩原　だって盛り上げたってでっかいスーパーになっちゃうんでしょ？
仁村　まぁそうですねー。
酒井　そんな、事、無いです、よ！
塩原　そんな事あるでしょ。
酒井　まだ、再開発が検討されてるって、いうだけで、その、再開発が決ま

った訳じゃないし、

酒井、注目が集まった事に焦りながらも喋っている。

仁村　そうねー。検討だもんねー。
塩原　まぁそうかもしれないけど・・・。
酒井　商店街が盛り上がって、あの、今閉めてる店も、開いたりとか、新しいお店が入ったら、再開発の話、無くなるかも、しれない、し。
古川　そうですよ。まだ決まりじゃないんだから。今、頑張りましょうよ。
塩原　でも、社長さんも全然乗り気じゃないし・・・。
古川　いいじゃないですか。社長になんて言われても。私たちは私たちで、頑張りましょう！
仁村　そうですよー。
酒井　はい。
塩原　・・・わかりました。そうですよね。まだ商店街がなくなるって決まった訳じゃないし。むしろ商店街を守る為にも、私が頑張らないと行けないよね。
古川　そうですよ。
塩原　よし、商店街は私が守る！お前達、私について来てくれるか？

すぐには返事出来ない三人。
突然、遠野が入ってくる。

遠野　塩原さんいらっしゃってます？
塩原　えー？タイミング悪いよ！遠野さん！
遠野　塩原さん、こんにちは。十日町さんは？
塩原　いや、まだ来てないけど。
遠野　そうですか・・・。
塩原　あからさまにテンション下げたね。
遠野　そうでもないですけど。
仁村　遠野ちゃんもうこっち来れるのー？
遠野　うーん。もう少ししたら来れると思う。あ、書類だけ渡しておきます

ね。

古川　何の書類？

遠野　道路使用の許可書類ですとか、こちらが今来てる出店の出店申請書。で、これ予算の概算なんですが、奉納金と出店の徴収で約五十万ほど集めれば・・・

塩原　五十万？そんなに？

遠野　交通整理なんかの人件費がありますから。でも祭礼の奉納料は個人でも五千円から一万円ほどが一般的ですし、決して集めるのが無理な金額ではないと思います。

古川　五十人から百人くらい集めるんだね？

遠野　実際は企業ですと五万円位納めて頂ける場合もあるみたいですし、出店からの徴収分も引くと個人からの奉納は二十名から三十名程度を想定してます。

塩原　それでも結構いるなぁ。

遠野　そこは頑張って集めるしか無いですね。じゃあまた後ほど伺いますので。

仁村　あとでねー。

遠野、さっさと出て行く。

塩原　五十万か。五十万もあったらどうする仁村さん？

仁村　私ですかー？そうですねー、温泉でも行きたいですねー。

古川　いいね、温泉。

仁村　課長はー？

古川　私はそういうの細々使っちゃうんだよなぁ。

塩原　欲しい物とか無いの？

古川　あ、お取り寄せのおいしい最中が。

塩原　お菓子好きだなー。

古川　うーん。そうなんですよねー。（ニヤニヤ）

塩原　気持ち悪いなー。酒井君は？

酒井　あ、、貯金・・・。

塩原　酒井君はそう言う感じするなー。

古川　塩原さんは？
塩原　私はねー。嫁に何か買ってあげるかな。
仁村　優しいですねー。
塩原　いや、今すっごいヤバいから。嫁のパートで生活してるから。機嫌を取らないと命に関わるから。
古川　塩原さんらしいなー。
塩原　そうだろー？
仁村　十日町君なら何しますかねー？
塩原　十日町君かぁ。トマトでも買い占めるんじゃない？
十日町　おっと、俺の噂かい？

アイスクリームを持った十日町が男前に入ってくる。

塩原　お、十日町君。
十日町　やぁ。いったい何の話？
仁村　五十万あったら何に使うかって話しててー。
十日町　？
酒井　あ、あの、予算が、
古川　お祭りの予算が五十万くらいなんだけどね。
塩原　十日町君はもし五十万あったら何に使う？
十日町　俺？・・・ヘラジカと暮らす。
酒井　ヘラジカ？
古川　ヘラジカ買うの？
十日町　いや、俺が、ヘラジカの群に入る。
塩原　五十万をどこに使うのかさっぱり判んないなー。

十日町、男前にアイスを食べ始める。

古川　あ、アイスいいなぁ。
塩原　本当だ。十日町君、私の分無いの？
十日町　・・・ホラ。

十日町、男前に自分のアイスを差し出す。男前に残念そう。

塩原　いや、無理にくれなくていいよ。

仁村　でもアイスいいなー。

古川　ちょっと買いにいっちゃおうか？

仁村　あ、行きましょー

酒井　でもマカロンも、ありますけど？

古川　まぁいいじゃない。デザートは別腹だよ。

酒井　・・・どっちも、デザートですけど。

古川　まぁまぁ。じゃあ酒井君はいらない？

酒井　あ、じゃあ、いります。

塩原　じゃあ私も行こう。

仁村　私買ってきましょうかー？

塩原　ううん。自分で選びたいから行くよ。

古川　やっぱりそうですよねー。

酒井　あ、みんなで行って、と、遠野さんに、怒、られないですかね？

古川　まぁ大丈夫でしょ。近くだし、すぐ戻ってくれば。

仁村　十日町くんに留守番頼めばー、

塩原　あ、そうだね。十日町君、ちょっと留守番お願いしていい？

十日町　ここは俺に任せて、行けよ。

塩原　じゃあ、ちょっとの間よろしくね。

古川、仁村、酒井、塩原出て行く。男前にくつろぐ十日町。
きょろきょろしながら細野が入ってくる。

細野　すみません。駅前商店街の夏のキャンペーン実行委員会ってこちらでよろしいですか？

十日町　どうかな。

細野　・・・あの電話で実行委員の方にこちらに来る様に申し遣ったんですが、実行委員の方はいらっしゃいますでしょうか？

十日町　奇遇だね。俺がその、実行委員だよ。

細野　あ、私、株式会社平井煙火本舗の細野と申します。（名刺出す）

十日町　よろしく細野。（名刺受け取らず握手）
細野　・・・よろしくお願いします。

細野、握手に応じたあと、名刺を渡そうとするも、十日町が受け取ろうとしないので名刺をしまう。

細野　・・・あの先日当社にご依頼いただいたイベント用の昼用花火の件でお伺いしたんですけれども、打ち上げ場所と、打ち上げ許可の確認をしたいんですが、
十日町　花火か・・・。
細野　はい。
十日町　いいよね。夜空を彩る花火。・・・たーまやー。・・・かーぎやー。
細野　・・・あの、昼用花火の件で伺ったんですけれども・・・。
十日町　夜は？
細野　はい？
十日町　夜は打ち上げないの？
細野　あの、ご依頼あれば打ち上げますけど。今回はイベントにつかう昼用花火のご依頼でしたよね？
十日町　花火は、夜、だろ？
細野　・・・まぁ、一般的には夜ですね。
十日町　俺は判ってるよ。お前も本当は夜の花火の方が好きだって。
細野　まぁ、昼の花火好きな人は希有ですね。音と煙だけなんで。
十日町　ほら、お前だって本当は打ち上げたいんだろ？
細野　あの、こちらとしましてはご依頼がないと打ち上げられませんので。
十日町　細野、他人がどうかじゃない。お前はお前の花火、打ち上げろよ。
細野　・・・じゃあ、その、ご依頼ってことでよろしいですかね？あの、失礼ですけどご予算の方は？
十日町　予算？あぁ、五十万だ。
細野　あ、五十万ですか。それでしたら昼用花火とは別に、夜も打ち上げるのは可能ですね。夜の花火の方は何かご希望ございますか？
十日町　そうだね・・・まずロケーションはオーロラの見えるサバンナにしてもらって、

細野　待ってください、待ってください！オーロラの見えるサバンナ。オーロラの見えるサバンナは・・・当社では、ちょっと。

十日町　出来ない？

細野　そうですね。花火の範疇では無いので。というかオーロラの見えるサバンナは、地球の範疇では無いので。

十日町　（ため息）お前の所為じゃない。

細野　・・・ご理解いただいて恐縮です。

十日町　お前には何が出来る？

細野　あ、そうですね。（資料を見せながら）ご予算五十万ですと、このあたりとか・・・。

十日町　この花火、乗れる？

細野　乗るのはちょっと・・・。

ぐだぐだしつつ暗転。

路上。

帰宅中の塩原。携帯電話が鳴る。

塩原　はい塩原、あぁ！どうもその節は！え？・・・あ、実はですね。今度の商店街のお祭りの事なんですけどね。はい。下田さんとこも奉納金出していただけないかなぁと。・・・・いやいやいやもちろんです。そこを・・・・そこをなんとか・・・はい。・・・・はい。・・・

酒井が通りかかる。歩みを止め塩原を見る。

塩原　あー、はい。・・・そこをお願いします！そこをひとつ！お願い、しまっす！・・・はい。あーそうですね。・・・それじゃあひとつ検討の方、はい。よろしくどうぞー。・・・ふぅ。あ、酒井君。

酒井　あ、ども・・・。

塩原　あ、帰りこっちだっけ？

酒井　あ、はい。塩、

塩原　ん？

酒井　塩原さん、は、こっちじゃない、ですよね？
塩原　あぁ、こっちにね。中学の時の友達の家があるんだよ。
酒井　そう、なんですか。
塩原　うん。もしかしたら奉納金出してくれるかもしれないからね。
酒井　あ、それで。
塩原　そうだよ。五十万までもう少し頑張らないとね。
酒井　意外と、や、！いや、何でも・・・。
塩原　意外と何？仕事してるってこと？つまり仕事しなそうに見えてたってこと？
酒井　いや！そういう、あれじゃ・・・
塩原　確かになぁ。こんなに頑張るはずじゃなかったのになぁ。
酒井　・・・。
塩原　何だろうねぇ。まぁみんなが協力してくれてなかったらこんなに頑張ってないけどねぇ。・・・不思議だねぇ。
酒井　そうですね・・・。
塩原　おっと、あんまり遅くなると迷惑だからもう行くね。
酒井　あ、はい。
塩原　じゃあ、また明日。
酒井　はい。

去る塩原を見送る酒井。

庶務室前。
鍵をかける古川。宇野が通りかかる。

古川　あ、社長。お疲れ様です。
宇野　あぁ君は今帰りか。
古川　はい。社長は？
宇野　まだだよ。というかほぼ定時で帰れるのは君の部署くらいだから。
古川　そうですね。みんな仕事を頑張ってて良い会社ですよね。
宇野　・・・うん。え？君らは頑張ってないの？
古川　頑張ってますよ。

宇野　なら、良いんだけどね・・・。
古川　社長も頑張れ。
宇野　・・・。
古川　じゃあ、失礼します。

古川、帰る。

宇野　なんで私が頑張ってないみたいなんだ！古川君！古川君？

宇野、古川の後を追う。

社内。
嬉々として話している仁村と遠野。

遠野　それでね？今日、十日町さんと同じエレベーターに乗ったのー！
仁村　そうなんだー。
遠野　これって、もしかして、十日町さんも、私の事が好きって事じゃないかな？私がそのエレベーターに乗るの待ってたとかー。
仁村　そうかもねー。
遠野　でも、よく考えたら、同じエレベーターに乗っただけで好きとか、そんな訳ないか。そんなに都合よくいくはずないよね・・・。
仁村　そうだねー。
遠野　だから今度は私から十日町さんにアピールしようと思うんだけど、ねぇ、どうしたらいいと思う？
仁村　そうねー。
遠野　例えば、十日町さんって結構動物とか好きなのよね。結構そう言う話するし。仁村ちゃんもそう思わない？
仁村　そうかもー。
遠野　そうでしょー！だから動物の・・・待って。仁村ちゃん、どうして十日町さんの事そんなによく知ってるの？もしかして、仁村ちゃんも十日町さんの事が好きなんじゃ・・・。
仁村　それはないなー。

遠野　良かったー！それでね！

延々続く。
暗転。

庶務室。
資料整理に余念のない古川、仁村、酒井。
塩原が宇野を連れてくる。後から十日町、遠野。

古川　あ、お疲れ様です。
塩原　はいはいお疲れ様。さぁ、どうぞどうぞ社長。
宇野　何だ、気持ち悪いな塩原さん。
塩原　そんなことありませんよ。へっへっへっへ。
宇野　本当に気持ち悪いよ。
塩原　まぁまぁそう言わず。今日は週末に控えましたお祭りについて、経過報告をさせて頂こうと思いまして。
宇野　ああ、そうですか。
塩原　おっと、社長。そんなノリでいられるのも今のうちですよ？我々キャンペーン実行委員と、地域活性プロジェクトチームの皆さんが、死力を尽くして企画したこの祭り。社長も「お祭りやって良かったー」って言う事間違い無し！
宇野　じゃあ、取りあえず聞きましょうか？
仁村　お茶でいいですか？
宇野　うん、ありがとう。

お茶を準備する仁村。
宇野が席に着く。
十日町が部屋の隅に何かを見つける。

塩原　はい。では古川さん、資料を。
古川　はい。
塩原　総予算五十万円強の資金では考えられないクオリティの・・・、

十日町　チッチッチッチ・・・・。

しゃがんで何かを見つめる十日町。

十日町　チッチッチッチ・・・・チッチッチッチ。おいで。

塩原　ちょっと、どうしたの十日町君？

十日町　ほら。ドブネズミ。

塩原　あ、本当だ。

宇野　追い払え！

宇野、部屋の隅にいたネズミを外に追い払う。

それを見つめる十日町。

恐る恐る十日町に話しかける遠野。

遠野　十日町さん、ちょっといい？

十日町　どうしたの？

遠野　十日町さん・・・ちゃんと答えて欲しいんだけど・・・好きなの？げっ歯類。

はっとする十日町。

古いトレンディドラマ風の十日町と遠野。

遠野　ねぇ十日町さん。・・・お願い本当の事言って・・・ネズミ、好きなの？

十日町　・・・。

塩原　修羅場が来たぞー。

宇野　どうした？なんだ？

遠野　ねぇなんで黙ってるの？・・・黙ってるって事は本当はネズミの事が好きなんでしょ？

宇野　何で？

塩原　どうなの！その辺どうなの十日町君！

十日町　・・・ごめん。・・・でも

遠野　いいわけなんか聞きたくない。・・・十日町さんのバカ。

遠野、泣きながら走り去っていく。

塩原　こじれたー！
宇野　え？何コレ？
十日町　でも俺、・・・そんな質問考えた事無かったから・・・。
宇野　何だよ、この空気。
十日町　俺、ネズミ好きなのかな？
塩原　・・・。

十日町が問うような目で塩原を見る。
塩原、男前に首を傾げる。
十日町と塩原、問うような目で宇野を見る。

宇野　知らんよ！もう君は出てけよ！
十日町　俺、ドブネズミとハツカネズミ・・・どっちが好きとかあるのかな？

十日町と塩原、問うような目で宇野を見る。

宇野　いいから出てけよ！
古川　まぁいいじゃないですか社長。どっちも好きっていうのも青春ですよ。
宇野　君は何言ってるの？
塩原　まぁまぁ社長。取りあえず落ち着いて。とにかく経過報告しますから。
仁村　お茶でーす。

塩原、宇野を座らせ、仁村がお茶を持ってくる。

塩原　えーでは早速説明を。これが資料と見積もりになりまして。
十日町　おっと、これも必要かい？
塩原　何？
十日町　花火の請求書。
塩原　え？何で十日町くんがそんな物持ってるの？

十日町　それが届いたとき、地球上に俺しかいなかったんだろ？
塩原　いや、私地球上にいたよ。
宇野　何をごちゃごちゃ言ってるの？
塩原　あー、すいません。えーっとじゃあ、ここの花火の見積もりの部分が、この数字になる訳ですね。ここの四万五千円が、えーっと、四万八千七百七十四五・・・ん？一、十、百、千、万、十万、ん？ん？全体の予算が五十二万で、花火が四十八万七千七百四十五円・・・。
宇野　残り三万ちょっとだが。
塩原　あれ？
仁村　どうしたんですかー。
古川　ちょっといいですか？

古川、塩原が持っていた花火の請求書を見る。

塩原　あれ？どうなってんの？
酒井　いや、（判らないです）
古川　これ夜に打ち上げ花火あげる事になってますけど。
塩原　頼んでないでしょ？夜は。
仁村　何かの間違いじゃないですかー？

騒然とする塩原達。

十日町　俺が頼んでおいたよ。
塩原　何で？
十日町　花火は夜、だろ？
仁村　まぁそうですねー。
塩原　キャンセル！キャンセルしよう！
酒井　そう、そうですね！
古川　あ、でもこれ、違約金かかりますよ。
塩原　え？
仁村　いくら、ですー？
古川　えっと一週間前以内だから、８０％で・・・。

仁村　五十万の８０％はー
酒井　四十万・・・。

宇野が立ち上がる。

塩原　あ、社長・・・。
宇野　もう戻らせてもらうよ。
酒井　で、でも、
宇野　なんだ？まだ何か話があるのか？
仁村　それはー、
宇野　これからどうするんだね？予算が全く足りない状態で私に何の説明をするんだね？
塩原　いやいや社長！予算の方は今から寄付をお願いして穴埋めしますから。
宇野　後一週間も無いのに、そんなに寄付が集められるのかね？
塩原　・・・あー、それは・・・。
宇野　・・・もう判った。・・・君らに仕事を任せた私が間違っていたんだ。今後君らには一切仕事を任せないよ。古川君、その祭の処理が君の最後の仕事だと思っておきなさい。
古川　・・・はい。

宇野、出て行こうとする。

酒井　待って、ください！
宇野　・・・なんだね？
酒井　あの・・・きょ・・・きょう・・・
宇野　だからなんだね？
酒井　・・・協賛金を！出してください！お願いします！
宇野　何だって？
酒井　みんな、みんな頑張ったんです！お願いします！協賛金を出して下さい！
宇野　なんでそんな金をうちが負担しなきゃならんのだね！

酒井、土下座。

酒井　お願いします！

仁村　酒井君・・・。

宇野　甘えるな！そんな事で金を出してもらおうなんて、

酒井　お願いします！協賛金を出してください！

宇野　黙れ！だいたい君らのミスだろうが。花火の発注が間違ってたのは。君らがしっかりしてたら払う必要がない金だろう。そもそも私はね、祭りをする事自体反対だったんだよ。それを君らが勝手に進めて、ふたを開ければこんな結果じゃないか。それで今度は金を出せだと？ふざけるな。君らが勝手に始めた事だ。うちからは一銭も出さんからな。

激昂した宇野が出ていく。

土下座のまま、うつむいている酒井。

塩原　・・・酒井君。取りあえず立ちなさい。

酒井　・・・はい。すみません。

塩原　何謝ってんの？酒井君、何も悪くないでしょ。

酒井　でも・・・。

古川　まぁ、大丈夫だよ。お金の事、ああは言ってたけど、社長、意外と優しいから。

仁村　そうですかー？

古川　そうだよ。私が社長にもう一度頼んでくるよ。まぁ何とかなるだろ。

酒井　あ、僕も行きます。

古川　いいから。ここは私に任せなさい。

古川、出て行く。

塩原　・・・酒井君、ありがとね。

酒井　いえ・・・すみません。

塩原　また謝る。大丈夫だよ。お金の事はなんとか、なるだろ。たぶん。・・・ねぇ？

塩原、仁村に目線を送るが、仁村、微動だにせず。

塩原　・・・まぁ、何とかならないなりに、どうにかなるよ。それよりも、私は酒井君が、一生懸命頼んでくれた事、その事の方が、嬉しかったから。

酒井　で、でも、このままじゃ、

仁村　お金、どうしましょうねー？

塩原　ううーん。社長がお金を出してくれると良いんだけど・・・。

酒井　やっぱり、僕行ってきます。

塩原　いや、ここは古川さんに任せよう。今酒井君が行っても話し合いにならなそうだから。

酒井　スミマセン・・・。

塩原　あ、そう言う意味じゃないからね？取りあえず古川さんに任せてみよう？

仁村　こういう時こそ遠野ちゃんがいてくれたらいいのにー。

塩原　そうだねぇ。私らにはどうしようもないもんね。

十日町　ちょっと待てよ！

塩原　お、十日町君。そもそも君の所為で・・・

十日町　チッチッチ。いつまでも過去の事を気にしていても仕方ないだろ？

塩原　十日町君がそれを言うの？

十日町　いいかい？今、君の目の前に見えるのはなんだい？

塩原　十日町君。

十日町、目線で仁村と酒井にも聞く。

仁村　十日町君。

酒井　十日町、さん。

十日町　・・・そう、未来だ。

塩原　誰も言ってないよ？

十日町　未来は、いつでも目の前に広がっているんだぜ？だから俺たちは今出来る事、やればいいんじゃないかな。

塩原　十日町君・・・十日町くんが原因じゃなかったら、今の言葉もっと納得できたのに。

仁村　残念ですー。

十日町、にやりと笑う。

塩原　あ、こっちの気持ちを考えない良い笑顔だね。まぁ確かに我々は出来る事をやるしかないか。

仁村　そうですねー。

酒井　商店街で奉納金を出してもらってない人に、もう一度お願いしましょう。

塩原　そうだね。後は・・・。

仁村　じゃあ奉納金を出してくれてる方にはーもう少し出してもらえる様にお願いしてみますねー。

塩原　じゃあ、私は知り合いをもう一回当たってみるか。十日町くんは？

十日町　神に祈ろう。

塩原　・・・十日町くんはその方が良いかもな。じゃあちょっと行ってくるね。

塩原が出て行こうとすると古川が戻ってくる。

古川　おぉ、どこ行くんです？

塩原　いや、奉納金をお願いしにいこうと思ったんだけど、そっちはどうでした？

古川　うん。大丈夫。五十万、出してもらえる事になったよ。

酒井　本当ですか？

塩原　ふぅー・・・。

仁村　よかったー。

十日町　俺の願いが通じたようだね。

古川　五十万いただけるから、このまま、夜の花火も打ち上げてもらおう。

仁村　良いですねー。

十日町　ほら、花火は夜で良かったろ？

塩原　十日町君、それは結果論だからね？ちょっと前まで非常に迷惑してたからね？

酒井　課長・・・ありがとうございました。

古川　いや、私はお願いしにいっただけだから。さぁ、それじゃあお金の心配は無くなったし心置きなく準備しようか。

仁村　はい。

酒井　あ、一応、他に不備が無いか確認しませんか？

古川　そうだね。じゃあもう一回全部確認しよう。

チェック作業を進める古川達。

塩原、舞台中央に立つ。

塩原　さぁ、お祭りまでもう少し。準備も最終段階になりました。我々が祭りの準備をしている間、皆様には小休止を入れて頂きたいと思います。ぶっちゃけもう尻が痛くて集中できないでしょ？足とかパンパンなんでしょ？ちょっと伸びとかすれば良いじゃない。休憩時間は、６０秒。短いから有意義に使ってね。それでは、全員起立！

休憩。

休憩が終了すると舞台は駅前商店街のお祭り会場。

大勢の人で賑わっている。

祭法被を着た塩原が走り込んでくる。（以後は皆、法被を着ている）

塩原　いつまで休んでんだ！座れぃ！・・・ちょっと言い過ぎたね。ごめんね。さぁお祭り当日になりましたよ。ほら（法被を見せる）私こういうの似合うよね。うん。赤とか、パッショナブルでしょ？パッショナブル。ファッションと、パッションを、かけたのね。つまり、

古川が塩原を呼びにくる。

古川　塩原さん。
塩原　おぉ古川さん。
古川　塩原さん、実行委員長として市長に挨拶してもらえる？
塩原　あーはいはい。市長ね。いいよ。
古川　市長に嫌われたら一気に商店街が潰される流れになるかもしれないけど、緊張しなくていいですから。
塩原　・・・なんでそんな事いうの？一気に緊張して来たよ？
古川　まぁ良いじゃないですか。あくまで自然体で話せば。
塩原　それが無理になるような事いわないでよ！
古川　じゃ、こっちにどうぞ。
塩原　待って！ちょっと待って！
古川　さぁさぁ。

古川、塩原の手を引いていく。

祭り会場八幡前。
「奉納金　〇〇様　金壱萬円」という張り紙を貼った板が見える。
板の一番上には「奉納金　宇野工業様　金伍拾萬円」と書いた紙が貼ってある。

張り紙を貼っていく仁村と酒井。
酒井はどこか緊張した様子。

仁村　この下田様の壱萬円貼ったらお仕舞いー？
酒井　あ、はい・・・。
仁村　じゃあこれ余りねー。

仁村、空欄の奉納金の張り紙を酒井に渡す。

酒井　はい・・・。
仁村　（板を見ながら）これだけ貼ると壮観ねー。
酒井　そうですね・・・。

仁村　こんなに奉納金が集まるなんて、私たち頑張ったよねー。
酒井　はい・・・。
仁村　・・・緊張してるのー？
酒井　はい・・・やっぱり御神輿のかけ声、僕がやらなきゃダメですかね？
仁村　塩原さんたっての指名だしねー。
酒井　でも、僕、向いてないんじゃないですかね？
仁村　大丈夫だよー。途中から遠野ちゃんが引き継いでくれるんだし、最初だけ頑張れば良いんだからー。
酒井　そうですけど・・・でもなぁ・・・。
仁村　とにかく、大きい声でー、一生懸命やれば良いと思うよー。
酒井　はぁ・・・。

十日町が颯爽とやってくる。

十日町　どうした？浮かない顔は似合わないぜ？
仁村　十日町君。
酒井　あ、どうも・・・。
十日町　おいおい、折角のダンスパーティーだってのに、ガラスの靴でも落としたかい？
仁村　酒井君が神輿のかけ声をやるのに自信が無いみたいでー。
十日町　なるほど。俺でよければ、レクチャーしようか？
酒井　え？
仁村　本当にー？
酒井　大丈夫ですか？
十日町　俺に任せて。よく見てるんだぜ？

十日町、仁村の前に跪く。

十日町　踊って頂けますか？
仁村　？はぁ・・・。

十日町、仁村の手を取り、完全に社交ダンスを踊る。

十日町　わっしょい、わっしょい。
酒井　何か違う。
十日町　どうした？怖くない。力を抜いて。さぁ、わっしょい、わっしょい。
仁村　わっしょい、わっしょい。
十日町　そうだ。わっしょい、わっしょい。
仁村　わっしょい、わっしょい。
酒井　何か違うよ。

そこに遠野が通りかかる。

遠野　あ！

踊る仁村と十日町を見て愕然とする遠野。

仁村　あ、遠野ちゃん。
十日町　やぁ。
遠野　どうも・・・。
仁村　今、十日町くんに御神輿のかけ声を教えてもらっててー。
遠野　そうなんだ。ふーん。酒井君、奉納金の張り紙終わった？
酒井　あ・・・はい。
遠野　じゃあ、余りくれる？
酒井　・・・はい。
遠野　ありがとう。それじゃ。
仁村　遠野ちゃん。今のは本当にー、酒井君のために、
遠野　別に良いから！そんな事言い訳しなくても・・・十日町さんはネズミの方が好きみたいだから。
酒井　え？
遠野　そうだよね。熊も殺しそうな土佐犬みたいな女より？気持ち悪いけどマニア受けするヌートリアみたいな女の方が？十日町さんだって良いに決まってるよね！
仁村　遠野ちゃん違うの聞いてー。

遠野　大丈夫だから！でもこれだけ言わせて、仁村ちゃん・・・この泥棒ネズミー！うわー！

遠野、走り去る。
通りかかった塩原とぶつかりそうになる。

塩原　うわあ！・・・何どうしたの？
酒井　いや、ちょっと色々誤解が。
塩原　誤解？
酒井　とにかく、追いかけた方が・・・。
塩原　え？あ、そう。十日町くんも行く？
十日町　困ったレディーだ。

十日町、遠野を追って駆け出す。

塩原　あ、十日町君！十日町くーん！

追う酒井、塩原。

仁村　遠野ちゃん・・・。

仁村も後を追う。
宇野が通りかかる。
奉納金の表示を見上げる宇野。

宇野　宇野工業奉納・・・。

細野が宇野を見つけ、やってくる。

細野　あ、宇野社長。
宇野　ん？
細野　あ、私、株式会社平井煙火本舗の細野と申します。このたびは当社に

宇野　ご依頼いただき誠にありがとうございます。
細野　依頼？あ、失礼。何の話か、ちょっと。
宇野　花火ですよ。花火。
細野　花火？
宇野工業様協賛スターマイン、どーんと打ち上げますんで、楽しみにしててください。

細野忙しそうに去っていく。残される宇野。

祭り会場の片隅。ほとんど人通りの無い路地にある空き地。
そこに独りたたずむ遠野。

遠野　はぁ・・・。

走り込む十日町。遠野を見つけるとゆっくり近づいてくる。

十日町　こんな所にいた。
遠野　十日町さん！
十日町　探したよ。ここにいたんだね。
遠野　え？私の事探してくれてたの？
十日町　当たり前だろ。俺はいつでも、君を探してるんだ。
遠野　・・・嘘。
十日町　どうして？
遠野　だって・・・十日町さん、本当は仁村ちゃんの事、気にしてるじゃない。今だって本当は、仁村ちゃんを探してたんじゃないの？
十日町　そんなことないよ。
遠野　そんな事ある！私、わかるもの！
十日町　俺の事、信じられない？
遠野　信じられないよ！私、十日町さんの事信じられない！
十日町　・・・じゃあ俺がこんな時によく効く魔法を教えてあげるよ。
遠野　魔法？

塩原が二人を見つける。

塩原　あ、十日町君。

十日町が一歩踏み出す。

十日町　・・・君が好きだー！

塩原　！（ビクッとして立ち止まる）

遠野　・・・。

十日町　ほら、大きな声をだすと少しすっとするんだぜ？

遠野、躊躇していたが決意し、一歩踏み出す。

遠野　私も、あなたが好きー！

塩原　なにこれー！

十日町　俺も好きだー！

遠野　私も好きー！

十日町と遠野、笑顔で走り去る。

残される塩原。

塩原　うわー、ものすごい現場にいてしまったー！

酒井　塩原さーん。

酒井が走り込んでくる。

塩原　あぁ酒井君。

酒井　遠野さん、見つかりました？

塩原　あぁー・・・まぁー、見つかった、というか、凄い所を見かけたっていうか。

酒井　え？

塩原　取りあえず大丈夫だと思う。集合場所の方に向かってたし。

酒井　そうですか。じゃあ、僕らも急がないと。もうすぐ神輿が出ますよ。
塩原　あぁ、もうそんな時間か。

酒井、塩原、急いで神輿に向かう。

神輿がやってくる。
神輿甚句を歌う人々。
神輿が行き過ぎると花火が上がる。

ベンチでビールを片手に花火見物をしている古川。
宇野がやってくる。

宇野　古川君。
古川　あ、社長。
宇野　どういうことだ？
古川　はい？
宇野　協賛金の五十万。うちの会社は払ってないぞ。
古川　あぁー・・・まぁいいじゃないですか。祭りが成功したんだから。
宇野　どっから出したんだ、金は。
古川　まぁいいじゃないですか。
宇野　・・・古川君が自腹で出したのか。
古川　まぁまぁ、そんな事はいいじゃないですか。

宇野、ため息。懐から封筒を出す。

宇野　ほら。
古川　何です？
宇野　いいから仕舞なさい。
古川　いや、いいですよ。
宇野　いいから！協賛で会社の名前が出てるのに、払ってんのが従業員じゃ格好つかないだろ。いいから仕舞なさい。
古川　じゃあ、ありがとうございます。

宇野、ため息をつき、ベンチに座る。

古川　社長のそう言う所が好きですよ。

宇野　私は君のそう言う所が嫌いだよ。

花火。

宇野　あー五十万が。

古川　まぁいいじゃないですか。たーまやー。

宇野　何も良くないよ。あんなもんの為に五十万も。

古川　でもきれいですよ？かーぎやー。

宇野　・・・古川君は変わらないねぇ。

古川　何がです？

宇野　中学校から成長してないって言ってんだよ。

古川　また古川先輩って呼んでくれてもいいですよ？

宇野　冗談じゃないよ。

花火

宇野　何やってんだろうね。私たちは。

古川　いいじゃないですか。こうやって騒いで、花火見て、みんな喜んでますよ。

宇野、ため息をつき、勢い良く立ち上がる。

宇野　そう言う問題じゃないんだよ古川君！まったく君は判ってないね！こんどの事で社がどれだけの損害をだしたのか！それが判らないなんて君は本当にダメな奴だな！いいかい古川君、明日からは死ぬ気で働いてもらうからね！

古川　はい。

宇野　・・・まったくしょうがないね、うちの会社は！

宇野、去っていく。
古川、一人ビールを飲む。
暗転。

庶務室。
一人、庶務室で誰かを待つ遠野。
仁村が出社してくる。

仁村　おはよー。
遠野　あ、仁村ちゃん・・・。
仁村　？なにー？
遠野　・・・あの・・・私・・・勘違いして・・・
仁村　いいよー。
遠野　・・・。
仁村　私たちー、友達でしょー？
遠野　・・・ありがと。

古川が出社してくる。

古川　お、おはよう。
遠野　おはようございます。
仁村　おはよーございますー。
古川　仁村ちゃん、栗羊羹買って来たんだけどさ。
仁村　あ、ありがとうございまーす
古川　遠野さんも食べる？
遠野　あ、じゃあいただきます。
仁村　じゃあ、お茶入れますねー。
遠野　あ、手伝うね。

仁村と遠野、仲良くお茶の準備を始める。
酒井が出社してくる。

遠野を見て、少しビビる酒井。

酒井　あ、お、おはようございます。
仁村　おはよー。
遠野　おはようございます。
古川　お、酒井君いいタイミング。お茶しよう？
酒井　は？はぁ。

仁村と遠野によって、お茶が運ばれてくる。

遠野　はいどうぞ。
酒井　あ、スミマセン・・・。

心なしか遠野が優しく見え、不思議そうな酒井。
お茶と羊羹を配り終える仁村と遠野。

仁村　はい、おまたせしましたー。
古川　じゃ、いただきます。

各々、お茶をいただく。
宇野が廊下を通りかかり、四人がお茶を飲んでいるのを見つける。
四人を見てため息をつき、入ってくる。

宇野　何やってんの？
古川　あ、社長。
宇野　「あ、社長」じゃないよ。何やってんの古川君。
古川　お茶を・・・
宇野　見りゃ判るよ！見りゃ判るんだよ古川君。私が聞きたいのはね、何で朝からゆっくりお茶してんのかって事だよ。
古川　まぁまぁ、いいじゃないですか。始業前だし。

酒井、お茶と羊羹を取りにいく。

宇野　そう言う問題じゃないんだよ。遠野君も何！一緒になって！
遠野　すみません・・・。
宇野　君たち会社に何しに来てるの？ねぇ、仁村さん。
仁村　お金をー貰いにー
宇野　仕事をしてね！仕事をしてお金を貰いにね！うちはお茶をしてる人間にお金を出す施設じゃ（酒井がお茶と羊羹を置く）・・・何？何コレ？
酒井　お茶です。
宇野　いらないって言ってるでしょ！まったく君たちは本当にしょうがないね！もういい！とにかく始業時間になったらちゃんと仕事しなさいよ！

宇野、栗羊羹だけ口に入れて出て行く。

仁村　せわしないですねー。
古川　まぁいいじゃない。ああいうところが社長らしくて。
酒井　あの、羊羹、あと二人分切ってあったんですけど。
仁村　あー、つい塩原さんと十日町君の分切っちゃったんだよねー。
酒井　あぁ。
仁村　二人ともいないのにねー。
十日町　いるよ。

十日町が男前に入ってくる。
遠野、十日町に駆け寄る。

遠野　十日町さん！どうしたの？
十日町　決まってるだろ？キミに会いに来たんだ。軽トラで。
酒井　軽トラ？
遠野　十日町さん・・・。
十日町　これ、君に。

十日町、うっとりしている遠野に封筒を渡す。

遠野　え？もしかして・・・。

遠野、封筒を開け、書類を見て息をのむ。

遠野　これ・・・。

十日町　そう。履歴書。

酒井　履歴書？

十日町　俺もここで働くよ。君の為に。バイトとして。

遠野　十日町さん・・・。

十日町　こんな俺だけど、一緒に働かせてくれるかな？

遠野　うん！人事には、私から強く言っておくね。

仁村　よかったねー。

古川　十日町くんも一緒に働けたら楽しいね。

酒井　まぁ・・・はい。

仁村　塩原さんも一緒なら良いんですけどねー。

古川　そういえば今日は塩原さん、一緒じゃないの？

十日町　もうすぐ来るさ・・・ほら。

塩原が入ってくる。

塩原　おはようございます。あ、十日町君。迷わず来れたんだ。

古川　おはようございます。

塩原　あぁ古川さん。折り入って頼みがあるんだけど。

古川　なんです？

塩原　いや、実は祭りの時に組んだ櫓なんだけど、解体した後、業者がうちに持って来ちゃって。店の前に積んでっちゃったから店開けられないんだよ。

酒井　店、開けるんですか？

塩原　うん。久しぶりに開けてみようかと思ってね。いつまでも嫁のパートに頼ってられないし。

古川　そうなんですか。

塩原　だから悪いんだけど、櫓の部品、ちょっと預かってくれない？
仁村　櫓って、結構大きくないですかー？
塩原　でかい。倉庫とか無い？
古川　ありますよ。
酒井　でも会社にそういうのは・・・社長がうるさそうですよね。
遠野　じゃあ、私が社長に許可を取ってきますね。
古川　あ、お願いできる？
遠野　お任せ下さい。
塩原　お、ありがとう。
遠野　いえ。

遠野、出て行こうとする。
それを男前に止める十日町。

十日町　俺がエスコートするよ。お姫様。
遠野　ありがとう。

十日町が遠野の手を引いて出て行く。

塩原　十日町君は行かない方がいいんじゃないかな。
古川　まぁいいじゃないですか。仲が良くて。
酒井　塩原さん。櫓はお店に取りにいけば良いんですか？
塩原　いや、持って来た。電気屋に軽トラ借りてさ。それで持って来たから駐車場にあるよ。
酒井　じゃあ持っていける物は倉庫まで持っていきましょうか。
塩原　そうだね。そうしようか。
酒井　はい。
塩原　酒井君変わったなー。
酒井　はい？
塩原　ううん。・・・酒井君、良い！
酒井　え？あ、はぁ。
塩原　じゃあ持ってこうか。

酒井　あ、はい。
古川　私も手伝いますよ。
塩原　あ、すいません。
仁村　私もー、
塩原　あぁ力仕事だから、仁村さんはいいよ。
仁村　そうですかー？
古川　そうだね。じゃあちょっと行ってくるから。
仁村　はーい。いってらっしゃーい。

古川、酒井、塩原、櫓をとりにいく。
一人でお茶を飲む仁村。
遠くに聞こえるひぐらし。
一息つくと、外から櫓を担ぐ声が聞こえる。

仁村　夏も終わりねー。

完